



令和6年度

WWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業
～Snow Crystal Project in HOKKAIDO～

カリキュラム開発拠点校 北海学園札幌高等学校

ニュースレポート 第5号 2024（令和6）年 6月 24日（月）

SCIENCE IN ENGLISH ～英語を用いた科学ワークショップ～

5月18日（土）、北海道大学大学院環境科学研究院にて運営指導委員長の山中康裕先生による『SCIENCE IN ENGLISH～英語を用いた科学ワークショップ～』が開催されました。

事前にポスター掲示や連携校への案内を行い、当校から14名、連携校等から5名が参加しました。「英語で学ぶ」事から、英語での講義になる事に不安や苦手意識がある生徒へ、山中先生自身も元々は英語が苦手だったことや、何度もチャレンジしていけば伝わるようになり、コミュニケーションがとれる事になる！とご自身の経験談を伝え、応援メッセージを送っていただきました。

午前中は「JRタワーからボールを落としたら、何秒かかるか」という問題に対して研究院の建物の8階からボールを落とし、数値シミュレーションをする…という実験と、結果をもとにグループワークを行いました。実験は、ボールを落とすチーム、ボールの着地を計るチームに分かれ、それぞれ息を合わせ楽しそうに計測する生徒達が印象的でした。その後、山中先生からガイダンスがあ



8階にいるチームとコンタクトを取る生徒達

ったスプレッドシートを使い、計測から空気抵抗の値を出し、JRタワーから落下させた時の予測を計算しました。時折出てくる専門用語の英単語も、グループに参加して下さっているアシスタント講師のフォローを受け、みんな真剣な表情で学んでいました。



グループワークで数値シミュレーションを学びました。

午後は午前中に学んだ数値シミュレーションを使って、気候変動・人口予測を考えました。地球温暖化が続く事でどんな影響があるのか、CO2が減らない現状をどんな行動で解決していくのか、人口が減っていく今、どのように仕組みを変え、どのように将来増やしていくのか…。様々な問題を考え、個人が起こす行動は小さなものであっても、いつか世界規模に繋がるのだという事を確認

し、今回のワークショップは終了となりました。

このSCIENCE IN ENGLISHにご協力くださいました山中先生をはじめアシスタント講師の皆様、グラフィックレコーディングをご指導くださいました水口様、ご参加くださった連携校の皆様へここにお礼申し上げます。ありがとうございました！

